

# Qlik Senseサイトの監視

Qlik Sense®

June 2019

Copyright © 1993-2019 QlikTech International AB. All rights reserved.



© 2019 QlikTech International AB. All rights reserved. Qlik®, Qlik Sense®, QlikView®, QlikTech®, Qlik Cloud®, Qlik DataMarket®, Qlik Analytics Platform®, Qlik NPrinting®, Qlik Connectors®, Qlik GeoAnalytics®, Qlik Core®, Associative Difference®, Lead with Data™, Qlik Data Catalyst™, Qlik Associative Big Data Index™ and the QlikTech logos are trademarks of QlikTech International AB that have been registered in one or more countries. Other marks and logos mentioned herein are trademarks or registered trademarks of their respective owners.

---

<b>1</b>	<b>本書について</b>	<b>5</b>
<b>2</b>	<b>Qlik Sense サイトの監視</b>	<b>6</b>
2.1	監視 アプリ	6
2.2	監視 アプリの構成	6
	シングル ノード環境の構成	7
	マルチ ノード環境の構成	7
	プレフィックス付きの既定の仮想プロキシ	8
	新しい監視 アプリのインポート	9
	アプリのカスタマイズ	9
2.3	QMC からの監視 アプリの起動	9
2.4	監視 アプリのアップグレード	10
	Qlik Sense 3.2.x から Qlik Sense June 2017 へのアップグレード	10
	同期持続性から共有持続性へのアップグレード	10
<b>3</b>	<b>Operations Monitor</b>	<b>12</b>
3.1	Operations Monitor シート	12
<b>4</b>	<b>License Monitor</b>	<b>14</b>
4.1	License Monitor シート	14
<b>5</b>	<b>Log Monitor</b>	<b>16</b>
5.1	QMC の監視 アプリへの Log Monitor アプリのインポート	16
5.2	Log Monitor シート	16
<b>6</b>	<b>Reloads Monitor</b>	<b>17</b>
6.1	QMC の監視 アプリへの Reloads Monitor アプリのインポート	17
6.2	Reloads Monitor シート	17
<b>7</b>	<b>Sessions Monitor</b>	<b>18</b>
7.1	QMC の監視 アプリへの Sessions Monitor アプリのインポート	18
7.2	Sessions Monitor シート	18
<b>7</b>	<b>Sense System Performance Analyzer</b>	<b>19</b>
7.3	QMC の監視 アプリへの Sense System Performance Analyzer アプリのインポート	19
7.4	Sense System Performance Analyzer シート	19
<b>8</b>	<b>トラブルシューティング: Qlik Sense サイトの監視</b>	<b>20</b>
8.1	監視 アプリが適切にバックアップされていない	20
8.2	間違っ て監視 アプリを削除してしまった	20
8.3	監視 アプリが破損した	21
8.4	監視 アプリのリロードに失敗した	21
	QMC における管理者権限の不足	21
	リム ノードでリロードが実行される	21
	メッセージ:「Error: HTTP protocol error 403 (Forbidden): The server refused to fulfill the request」	22
	メッセージ:「Error: Field not found...」(項目が見つかりません...)	22
	メッセージ:「Error: Table 'tempDateTimeList' not found...」(テーブル 'tempDateTimeList' が見つかりません...)	22
	メッセージ:「Error: QVX_UNEXPECTED_END_OF_DATA...」	23
8.5	マルチノード環境でリロードに失敗する監視 アプリ	24

---

セントラル ノードがリロード ノードではない .....	24
リポジトリデータベースが別のマシン上にある .....	25
8.6 データベース ログをオフにした後、Operations Monitor アプリでリロードが失敗する .....	25
8.7 Qlik RESTコネクタ経由でのQRSへの接続に失敗した .....	26

# 1 本書について

このガイドでは、*Operations Monitor*、*License Monitor*、*Log Monitor*、*Sessions Monitor*、*Reloads Monitor*、および Qlik Sense サイトの監視に使用されるアプリについて説明します。本書は Qlik Sense のオンラインヘルプをもとに作成されています。オフラインでの情報入手や印刷の便宜を図った簡易版のため、すべての情報が掲載されているわけではありません。詳細は、オンラインヘルプや関連文書を参照してください。

監視アプリは QMC スタートページからアクセスできます。ナビゲーションパネルの **GOVERNANCE** の下にある **Monitoring apps** リンクを使用して、個別アプリを開始できる **Monitoring apps** ストリームを表示できます。

*Operations Monitor* アプリでは、サーバーメモリと CPU の使用率、アクティブユーザー数、リロードタスクアクティビティなど、ハードウェアの使用状況に関する情報が提供されます。さらに、Qlik Sense サーバー環境でのエラー、警告、ログアクティビティに関する要約と詳細情報も提供され、トラブルシューティングに活用できます。

*License Monitor* アプリは、ライセンスの使用状況を追跡し、ライセンス割り当ての変更を監視するためにも活用できます。

*Log Monitor* アプリは、使用可能なログデータをほぼすべて提示し、トレンド分析およびトラブルシューティングを有効にします。

*Sessions Monitor* アプリは、アプリの使用方法に関するログデータを示します。

*Reloads Monitor* アプリは、QMC およびハブで開いているアプリの両方から、リロードされたデータの詳細情報を提示します。

監視アプリは、状態の履歴およびトレンドを示すデータを提供します。リアルタイム状態は QMC 管理リソースにより提供されます。監視アプリにより明らかになった問題に対応するためのアクションは QMC でも実施可能です。

## 2 Qlik Sense サイトの監視

### 2.1 監視アプリ

Qlik Management Console (QMC) にはシステム パフォーマンスおよび Qlik Sense サーバー ノードの使用状況を監視し、ライセンス使用状況を監視するアプリが含まれています。

*Operations Monitor* アプリと *License Monitor* アプリには QMC スタートページからアクセスします。ナビゲーションパネルの **GOVERNANCE** の下にある **Monitoring apps** リンクを使用して、個別アプリを開始できる **Monitoring apps** ストリームを表示できます。

*Operations Monitor* アプリでは、サーバー メモリと CPU の使用率、アクティブユーザー数、リロードタスクアクティビティなど、ハードウェアの使用状況に関する情報が提供されます。さらに、Qlik Sense サーバー環境でのエラー、警告、ログアクティビティに関する要約と詳細情報も提供され、トラブルシューティングに活用できます。

*License Monitor* アプリは、ライセンスの使用状況を追跡し、ライセンス割り当ての変更を監視するためにも活用できます。

追加の *Monitoring apps* は `%ProgramData%\Qlik\Sense\Repository\DefaultApps\` からインポート可能です。「新しい監視アプリのインポート (page 9)」を参照してください。

追加の *Monitoring apps* には以下が含まれます。

*Log Monitor* アプリは、使用可能なログデータをほぼすべて提示し、トレンド分析およびトラブルシューティングを有効にします。

*Sessions Monitor* アプリは、アプリの使用方法に関するログデータを示します。

*Reloads Monitor* アプリは、QMC およびハブで開いているアプリの両方から、リロードされたデータの詳細情報を提示します。

*Sense System Performance Analyzer* アプリには、すべてのノードにおける Qlik Sense パフォーマンスが表示されません。

*Sense Connector Logs Analyzer* アプリでは、特定の Qlik コネクターの使用状況とエラーに対する洞察を得ることができます。

*App Metadata Analyzer* アプリでは、すべての Qlik Sense アプリを全体的に表示することができます (アプリのデータモデルの詳細およびそのリソース使用率を含む)。

監視アプリは、状態の履歴およびトレンドを示すデータを提供します。リアルタイム状態は QMC 管理リソースにより提供されます。監視アプリにより明らかになった問題に対応するためのアクションは QMC でも実施可能です。

### 2.2 監視アプリの構成

Qlik Sense のインストールでは必ず、監視アプリをある程度構成する必要があります。

### シングル ノード環境の構成

次の手順を実行します。

1. C:\ProgramData\Qlik\Sense を Qlik Sense の共有フォルダーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) へのパスで置き換えてデータ接続 *ArchivedLogFolder* を更新します: ||<FQDN>\<QlikShare>\ArchivedLogs。
2. 接続文字列 URL および *trustedLocation* パラメーターに含まれる *localhost* を、ノードの FQDN で置き換え、*monitor\_apps\_REST\_* データ接続を更新します。
3. 監視アプリでは、接続に使用する仮想プロキシ上で Windows 認証を使用する必要があります。これが既定の仮想プロキシでない場合は、*|qrs|* を *|<prefix>|qrs|* に置き換えます。<prefix> は、Windows 認証が有効になっている仮想プロキシのプレフィックスです。  
参照先: プレフィックス付きの既定の仮想プロキシ (page 8)

### マルチ ノード環境の構成

マルチノード環境の構成は、集中ログまたはファイル ログのどちらを使用するかによって異なります。

#### 集中ログを使用する場合の構成

次の手順を実行します。

1. C:\ProgramData\Qlik\Sense\Log をセントラル ノードの FQDN パスである ||<FQDN>\<UNC\_Share>\Log に置き換えて、データ接続 *ServerLogFolder* を更新します。
2. 接続文字列 URL および *trustedLocation* パラメーターに含まれる *localhost* を、セントラル Qlik Sense repository サービス実行中のノードの FQDN で置き換えて、*monitor\_apps\_REST\_* データ接続を更新します。
3. 仮想プロキシにプレフィックスが付いている場合、*monitor\_apps\_REST\_* データ接続を更新して付加されたプレフィックスを含める必要があります。  
参照先: プレフィックス付きの既定の仮想プロキシ (page 8)
4. 接続文字列 URL の *localhost* を、集中ログデータベースが存在するマシンの FQDN に置き換えて *QLogs* データ接続を更新します。



集中ログデータベースは、有効化されていることもいないことも、Qlik Sense Repository Database と同じ PostgreSQL データベースに配置されていることもいないこともあります。

#### ファイル ログを使用する場合の構成 (集中ログは無効)

1. C:\ProgramData\Qlik\Sense\Log をセントラル ノードの FQDN パスである ||<FQDN>\<UNC\_Share>\Log に置き換えて、データ接続 *ServerLogFolder* を更新します。
2. 接続文字列 URL および *trustedLocation* パラメーターに含まれる *localhost* を、セントラル Qlik Sense repository サービス実行中のノードの FQDN で置き換えて、*monitor\_apps\_REST\_* データ接続を更新します。
3. 仮想プロキシにプレフィックスが付いている場合、*monitor\_apps\_REST\_* データ接続を更新して付加されたプレフィックスを含める必要があります。  
参照先: プレフィックス付きの既定の仮想プロキシ (page 8)

4. 各 RIM ノードで Qlik Sense ログ フォルダ (`C:\ProgramData\Qlik\Sense\Log`) を共有します。
5. `C:\ProgramData\Qlik\Sense` を Qlik Sense の共有フォルダーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) へのパスで置き換えてデータ接続 `ArchivedLogFolder` を更新します: `\\<FQDN>\<QlikShare>\ArchivedLogs`。
6. リム ノードごとに `Log` フォルダーへの新しいデータ接続を追加します。これは、アプリを開き、データロードエディターにアクセスし、新しいデータ接続を作成することによって達成できます。RIM ノードが 5 つある場合は、データ接続を 5 つ作成する必要があります。  
例えば、RIM1 のデータ接続はフォルダー `\\rim_node_1\<UNC_Share>\Log` をポイントし、RIM1 と呼ばれます。
7. QMC で新しいデータ接続の名前を変更して、データ接続名に付加されている (ユーザー名) を削除します。例: `RIM1 (user_183)` は `RIM1` に変更されます。
8. 手順 6 および 7 で作成されたすべての新しいデータ接続の名前を追加することにより、5 行目の `logFolderList` セクションで `Operations Monitor` のロードスクリプトを更新します。  
次の手順を実行します。
  - i. `Operations Monitor` アプリを QMC に複製します。
  - ii. Qlik Sense ハブで複製されたアプリを開きます。
  - iii. ロードスクリプトの編集: 新しいデータ接続のそれぞれの名前は、一重引用符 (!) で囲み、コンマで区切る必要があります。  
例: `'ServerLogFolder'`、`'RIM1'`、`'RIM2'` 内の各ノードに関して。
  - iv. アプリを保存します。
  - v. 重複したアプリを **Monitoring apps** ストリームに公開し、**[既存アプリの上書き]** を選択して既存 `Operations Monitor` アプリを置き換えます。
9. `License Monitor` のステップ 8 を実行します。



セントラル ノードがリロード ノードでないときに問題が発生する場合は、マルチノード環境でリロードに失敗する監視アプリ (page 24)。

### プレフィックス付きの既定の仮想プロキシ

既定の仮想プロキシがプレフィックスを使用する場合に `Operations Monitor` と `License Monitor` が正しくリロードできるためには、プレフィックスを手動で `qrs` データ接続に追加する必要があります。デフォルトの URL は、`https://<FQDN>/qrs/app/full` で、FQDN はリポジトリが存在するノードを指します。仮想プロキシのプレフィックスが、「qlik」の場合は、URL は `https://<FQDN>/qlik/qrs/app/full` となります。

次のデータ接続を更新する必要があります。


- `monitor_apps_REST_app`
- `monitor_apps_REST_appobject`
- `monitor_apps_REST_event`
- `monitor_apps_REST_license_overview`
- `monitor_apps_REST_license_login`
- `monitor_apps_REST_task`
- `monitor_apps_REST_user`
- `monitor_apps_REST_license_user`



### 新しい監視アプリのインポート

追加の監視アプリである、Log Monitor、Reloads Monitor、Sessions Monitor、Sense System Performance Analyzer、Sense Connector Logs Analyzer、および App Metadata Analyzer は、QMC の既定のアプリではありません。これらのアプリが QMC に表示されるようにするにはインポートが必要です。

次の手順を実行します。

1. QMC のスタートページで、[アプリ] を開きます。
2. 操作バーの  **インポート** をクリックします。
3. **[ファイルを選択]** をクリックし、`%ProgramData%\Qlik\Sense\Repository\DefaultApps\` に移動します。
4. `apps` に移動します。インポートするアプリを選択し、**[インポート]** をクリックします。  
アプリがインポートされ、監視アプリのストリームに公開できるようになります。
5. 残りのアプリについて手順 2~4 を繰り返します。



Sessions Monitor、Log Monitor、Reloads Monitor、Sense System Performance Analyzer、Sense Connector Logs Analyzer、および App Metadata Analyzer の各アプリは、Qlik Sense のアップグレード時に自動的に更新されません。これらのアプリは、アップグレード後に手動でインポートする必要があります。

### アプリのカスタマイズ

特定の環境で有効な場合には、ビジュアライゼーションによって監視アプリの機能を拡張することが可能です。監視アプリには、使用する軸とメジャーを示すアセットパネルが備わっています。この軸とメジャーを使用して、アプリに追加できるカスタマイズされたビジュアライゼーションを、別個のシート上に作成できます。

アセットパネルには、アプリのどのシートでも使用されないものの、特定の環境では有用な追加のビジュアライゼーションも表示されます。



Operations Monitor および License Monitor にあるデータはライブではなく、アプリのリロードの際に更新されます。リロード頻度はタスクのトリガーを編集して変更できます。

## 2.3 QMC からの監視アプリの起動

操作およびライセンス監視用のアプリは、QMC スタートページに移動すると起動します。監視アプリには、ナビゲーションパネルの **[ガバナンス]** の下にある **[監視アプリ]** リンクからアクセスできます。

次の手順を実行します。

1. QMC を開始します。
2. QMC アプリを使用するユーザーにユーザーアクセスを割り当てるか、ユーザーがログインパスでアプリを使用できるグループにログインアクセスを割り当てます。

- ナビゲーション パネルの **GOVERNANCE** の下の **Monitoring apps** リンクをクリックします。  
個別アプリを開始できる **Monitoring apps** ストリームが表示されます。



監視 アプリを初めて起動する場合は、まだリロードがされていないため表示するデータがない場合があります。License Monitor (ライセンス モニター) の場合、1 つ以上のライセンス トークンが割り当てられるか、アクセスが拒否されるまでデータはありません。そのため、リロードするとデータが表示されないことがあります。次のスケジュールされたリロードの前にアプリのデータを更新するには、QMC のアプリ概要に戻り、**More actions > Reload now** ([その他のアクション]>[今すぐリロード]) の順にクリックします。

## 2.4 監視 アプリのアップグレード

### Qlik Sense 3.2.x から Qlik Sense June 2017 へのアップグレード

Qlik Sense 3.2.x から June 2017 またはそれ以降のリリースにアップグレードすると、8 つの新しい REST データ接続 (monitor\_app\_REST\_) が導入されます。既存の qrs\_ データ接続は、REST コネクターの機能が変更されたため機能しません。そのため、これらの qrs\_ データ接続は削除することができます。

### 同期持続性から共有持続性へのアップグレード

同期持続性から共有持続性にアップグレードする場合、旧バージョンのアーカイブ ログの共有持続性 ArchivedLogs 共有への移動が必要となる場合があります。

次の手順を実行します。

- サービス クラスターの *ArchivedLogs* フォルダーに *OlderLogs* (または任意の名前) のフォルダーを新しく作成します。このフォルダーは QMC > サービス クラスターにあります。
- 以下に示すサブフォルダーを (旧バージョンの) *Archived Logs* から手順 1 で作成した *OlderLogs* フォルダーに移動またはコピーします。
  - 既定の *Archived Logs* フォルダーは `c:\programdata\qlik\sense\repository\archived logs` です。
  - 以下のフォルダーを新しい場所にコピーします。
    - Engine
    - Repository
    - Proxy
    - Scheduler
    - Printing



上記のフォルダーを移動またはコピーするのは、他のログフォルダー (*AppMigration* や *Script*) は監視 アプリにロードされず、非常にサイズが大きくなる可能性があるためです。

- ArchivedLogs* フォルダー (サービス クラスター用) に、使用環境の各 ノード用のフォルダーに加え、この *OlderLogs* フォルダーが存在することを確認してください。

4. QMC の *ArchivedLogsFolder* データ接続が、*ArchivedLogs* フォルダ (QMC > ServiceCluster で定義) を参照するよう更新します。
5. *c:\Programdata\Qlik\Sense\Log* にある *governance\*.QVD* の 7 より前のバージョンは削除することができます (オプション)。
6. QMC から新しい監視 アプリをリロードします。

## 3 Operations Monitor

*Operations Monitor* (オペレーション モニター) はサービス ログをロードし、ハードウェア使用状況、アクティブ ユーザー数、アプリケーション数、タスクリロードの結果、エラーと警告数のパフォーマンス履歴をグラフ化します。また、*Operations Monitor* に影響する QMC の変更内容を記録します。



シートとビジュアライゼーションの詳細については、[ストーリー] の下のアプリ概要ページにある、「Sessions Monitor について」というストーリーを参照してください。

ログ ファイルは %ProgramData%\Qlik\Sense\Log\Repository\Trace にあります。

*Operations Monitor* を使用すると、システムのパフォーマンスを追跡して、悪影響を与える可能性のあるアクティビティを調査できます。たとえば、リロードタスクやセッションを分析することにより、リロードの再スケジュールやセッションの再配布によって軽減される可能性のある障壁を見つけることができます。または、**QMC Change Log** シートを使用して、システムのパフォーマンスの変化を説明可能な変化を見直すことができます。

### 3.1 Operations Monitor シート

*Operations Monitor* シートには、現在のノードにおける Qlik Sense のパフォーマンスを表示します。マルチノードに対して正しく構成してある場合 ([ マルチ ノード環境の構成 (page 7)]参照) は、すべてのノードについての情報が含まれます。

<b>Session Overview</b>	選択された期間におけるアプリ、アプリケーション、アプリユーザーに関する概要情報が表示され、どのユーザーがいつどのアプリを使用したかを示します。
<b>Daily Sessions</b>	アクセスのあったアプリの詳細とユーザー数を表示します。
<b>Session Details</b>	数値、平均期間、最終セッション日からの経過日数、開始時間と終了時間、セッションが終了した理由、アプリが実行されたクライアントのタイプなどを含む個別のユーザーおよびアプリケーションについての詳細を表示できます。
<b>Sheet Usage</b>	シートにアクセスしているユーザーの概要と詳細な情報、およびアプリへのアクセスがないシートの情報を表示します。
<b>Task Details</b>	期間と開始時間と終了時間の実行詳細を含む、個別のアプリリロードの成功 / 失敗回数の詳細を表示できます。
<b>Export Overview</b>	どのユーザーがどのアプリオブジェクトをいつエクスポートしたかを示す、アプリやアプリオブジェクト、アプリユーザーについての概要情報を提供します。
<b>Apps</b>	Qlik Sense Repository Service ( QRS ) に、名前、アプリオブジェクトの ID、所有者、公開、ストリームを含む、アプリの詳細を提供します。
<b>Log Details</b>	リロードの時間、結果、エラー メッセージと警告、ログ エントリを含む <i>Operations Monitor</i> のリロードの詳細を表示できます。



Operations Monitor のデータはアプリがリロードされる際に更新されます。データはリアルタイムで更新されていません。

## 4 License Monitor

*License Monitor* (ライセンス モニター) はサービス ログをロードし、トークン割り当て、ログインとユーザー パスの使用を含むチャートとテーブル、およびエラーと警告を表示します。



シートおよびビジュアライゼーションの詳細については、アプリ概要ページの[ストーリー]からアクセス可能な「License Monitor について」というストーリーを参照してください。

ログ ファイルは %ProgramData%\Qlik\Sense\Log\Repository\Trace にあります。





プロフェッショナル アクセスおよびアナライザー アクセスを備えたユーザーベースのライセンスがある場合は、そのライセンス タイプに関連する図が表示されます。

### 4.1 License Monitor シート

License Monitor シートには、現在のノードにおける Qlik Sense のパフォーマンスを表示します。マルチノードに対して正しく構成してある場合 (「マルチ ノード環境の構成 (page 7)」参照) は、すべてのノードについての情報が含まれます。

<b>Overview</b>	未割り当てアクセス権とアクセス権の合計数の比率の概要、割り当て可能な Analyzer Capacity の合計時間 (分)、過去 7 日間、28 日間、および 90 日間のログインとユーザー アクセス セッション、過去 7 日間のライセンス トークンの割り当ての変更、ライセンス使用期間の経過についての概要データが表示されます。
<b>User Detail</b>	ユーザーは、ユーザー アクセス パス セッション、セッションを開始したユーザー数、およびセッションを開始した個々のユーザーを表示する期間を選択できます。
<b>Usage by App</b>	ユーザーは、アプリで使用されたアクセス パスと、各アプリで消費されたトークンの数を表示する期間を選択できます。
<b>Timeline</b>	<i>Timeline</i> シートには時間の経過に伴うトークンの使用状況が表示されるため、管理者は使用状況を監視し、将来のトークン割り当てのニーズを予想することができます。
<b>User Access History</b>	ユーザーは、ユーザー アクセス パス セッション、セッションを開始したユーザー数、およびセッションを開始した個々のユーザーを表示する期間を選択できます。

トークンベースのライセンスでのみ有効です。

<b>Login Access History</b>	<p>ユーザーは、ログインパス使用状況、ログインアクセスユーザー数、拒否されたログインアクセス数を表示する期間を選択できます。</p> <div data-bbox="507 336 1386 434" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">  トークンベースのライセンスでのみ有効です。 </div>
<b>Allocation History</b>	<p>ログインアクセスパスとユーザーアクセスパスへのライセンストークンの割り当てに対する最新の変更と選択した期間の変更を表示します。</p>
<b>Usage Snapshot</b>	<p>ライセンスの割り当ておよび使用履歴のスナップショット表示を提供する概要シートです。</p>
<b>Unified Licensing History</b>	<p>Qlik Sense および QlikView のライセンス使用状況を並べて表示します。</p> <div data-bbox="507 698 1386 913" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">  QlikView のライセンス使用状況を表示するには、新しい <code>monitor_apps_qlikview_logs</code> データ接続が、QlikView Server のログを含んでいるフォルダをポイントする必要があります。QMC でデータ接続を更新します。 </div>
<b>Log Details</b>	<p>クラスターにサーバーをリストし、サーバーのログに記入されたライセンスの使用に関する詳細を提供します。</p>



License Monitor のデータはアプリがリロードされる際に更新されます。データはリアルタイムで更新されていません。

## 5 Log Monitor

Log Monitor は、Qlik Sense の利用可能なほぼすべてのログ データをロードし、ビジュアライゼーションします。これにより、Qlik Sense 環境における問題の傾向把握と分析、トラブル解決につなげることが可能となります。

Operations Monitor と比較すると、Log Monitor はより多くのログ ファイルをロードしますが、期間は短く(既定では 7 日間) なります。



シートとビジュアライゼーションの詳細については、[ストーリー] の下のアプリ概要ページにある、「Log Monitor について」というストーリーを参照してください。

ログ ファイルは %ProgramData%\Qlik\Sense\Log\Repository\Trace にあります。

### 5.1 QMC の監視 アプリへの Log Monitor アプリのインポート

Log Monitor は、既定では QMC からは利用できません。利用できるようにするには、このアプリをインポートする必要があります。

セクション [新しい監視 アプリのインポート \(page 9\)](#) の説明に従ってください。

### 5.2 Log Monitor シート

Log Monitor シートは、現在のノードにおける Qlik Sense のパフォーマンスを表示します。複数のノードに対して正しく構成した場合 (「[マルチ ノード環境の構成 \(page 7\)](#)」参照) は、すべてのノードについての情報が含まれます。

<b>Overview</b>	直近数時間および数日のアクティビティを要約し、不規則な事象をすばやく特定することができます。
<b>Timeline</b>	棒グラフ Activity Timeline は、前の週のログ記録アクティビティの概要を示します。代替軸を使用して、時系列でのメジャーの変化を確認したり、調査が必要な可能性のある逸脱した値を発見したりします。
<b>Trends</b>	パフォーマンス (CPU および RAM)、利用状況 (アプリおよびユーザー)、エラー、リロードステータスを示す、タイムラインのコレクションを表示します。
<b>Errors &amp; Warnings</b>	エラーおよび警告の要約と詳細情報を含むタイムラインを表示します。
<b>Filters</b>	ログに含まれる多数のキー項目を示すフィルター パネルを格納します。項目を選択し、データからの発見につなげます。
<b>Log Details</b>	展開されているサーバーのエラー、警告、情報 ログ エントリを表示します。



Log Monitor のデータは アプリがリロードされる際に更新されます。データはリアルタイムで更新されていません。



## 6 Reloads Monitor

*Reloads Monitor* は、リロードに関するログデータをロードして提示します。リロードデータは、ハブでオープンされている QMC のタスクとアプリの両方から収集されます。どのアプリが更新されたか、およびアプリが更新されたタイミング、場所、頻度などの詳細を確認できます。



シートとビジュアライゼーションの詳細については、[ストーリー] の下のアプリ概要ページにある、「*Reloads Monitor* について」というストーリーを参照してください。

ログファイルは %ProgramData%\Qlik\Sense\Log\Repository\Trace にあります。

### 6.1 QMC の監視アプリへの *Reloads Monitor* アプリのインポート

*Reloads Monitor* は、既定では QMC からは利用できません。利用できるようにするには、このアプリをインポートする必要があります。

セクション [新しい監視アプリのインポート \(page 9\)](#) の説明に従ってください。

### 6.2 *Reloads Monitor* シート

*Reloads Monitor* シートは、現在のノードにおける Qlik Sense のパフォーマンスを表示します。複数のノードに対して正しく構成した場合 ([「マルチノード環境の構成 \(page 7\)」](#)参照) は、すべてのノードについての情報が含まれます。

<b>Dashboard</b>	リロードタスク履歴の概要を示します。棒グラフ <i>Reloads by Hour</i> およびコンボチャート <i>Reload Count and Duration Trend</i> で利用可能な代替軸およびメジャーを使用することで異なる表示を取得します。
<b>Task Planning</b>	タスクがリロードされた日時および関連付けられた期間と失敗率を表示します。このデータを使用してリロードのスケジュールを再設定し、パフォーマンスを最適化します。
<b>Reload Summary</b>	リロードの履歴統計および最近完了したリロードに関する詳細情報を示します。
<b>Log Details</b>	特定のログイベントおよび時刻に関する詳細を示します。
<b>Intermediate Details</b>	Triggered、Started、Queued など、タスクリロードの中間状態を示します。



*Reloads Monitor* のデータはアプリがリロードされる際に更新されます。データはリアルタイムで更新されていません。

## 7 Sessions Monitor

Sessions Monitor は、ユーザーのアプリケーションに関するログ データをロードし、表示します。



シートとビジュアライゼーションの詳細については、[ストーリー] の下のアプリ概要 ページにある、「Sessions Monitor について」というストーリーを参照してください。

ログ ファイルは %ProgramData%\Qlik\Sense\Log\Repository\Trace にあります。

### 7.1 QMC の監視 アプリへの Sessions Monitor アプリのインポート

Sessions Monitor は、既定では QMC からは利用できません。利用できるようにするには、このアプリをインポートする必要があります。

セクション [新しい監視 アプリのインポート \(page 9\)](#) の説明に従ってください。

### 7.2 Sessions Monitor シート

Sessions Monitor シートには、現在のノードにおける Qlik Sense のパフォーマンスを表示します。マルチノードに対して正しく構成してある場合 ([ [マルチ ノード環境の構成 \(page 7\)](#) ]参照) は、すべてのノードについての情報が含まれます。

<b>Dashboard</b>	セッション アクティビティの概要を示します。棒グラフ Sessions Over Time およびコンボ チャート User and App Count Trend で利用可能な代替軸およびメジャーを使用することで異なる表示を取得します。
<b>Session Heatmap</b>	セッション アクティビティが最も多い、および最も少ない時刻を示します。このデータを使用して、使用率のピーク時刻やサーバー メンテナンスに適した時刻を把握します。
<b>Session Details</b>	より詳細なセッション アクティビティ情報を示し、使用されていないアプリやアプリの使用頻度が高いユーザーの特定に役立てることができます。
<b>Apps</b>	アプリおよびアプリオブジェクトに関するメタデータを示します。
<b>Log Details</b>	特定のログ イベントおよび時刻に関する詳細を示します。



Sessions Monitor のデータはアプリがリロードされる際に更新されます。データはリアルタイムで更新されていません。

# 7 Sense System Performance Analyzer

Sense System Performance Analyzer は、プラットフォームとプロセスのパフォーマンスデータとともに Windows のイベントデータをログ データベースからプルします。



このアプリには、既定の集中ログが設定されている February 2019 バージョン以降の Qlik Sense が必要です。



シートとビジュアライゼーションの詳細については、アプリ概要ページの [ストーリー] にある「[Sense System Performance Analyzer](#)」というストーリーを参照してください。

## 7.3 QMC の監視アプリへの Sense System Performance Analyzer アプリのインポート

Sense System Performance Analyzer は、既定では QMC からは利用できません。利用できるようにするには、このアプリをインポートする必要があります。

セクション [新しい監視アプリのインポート \(page 9\)](#) の説明に従ってください。

## 7.4 Sense System Performance Analyzer シート

Sense System Performance Analyzer シートには、すべてのノードにおける Qlik Sense パフォーマンスが表示されます。

シートの詳細については、アプリ概要ページの [ストーリー] にある「[Sense System Performance Analyzer](#)」というストーリーを参照してください。



Sense System Performance Analyzer のデータはアプリがリロードされる際に更新されます。データはリアルタイムで更新されていません。

# 8 トラブルシューティング: Qlik Senseサイトの監視

このセクションでは、Qlik Senseサイトを監視するときに発生する可能性のある問題について説明しています。

## 8.1 監視アプリが適切にバックアップされていない

Qlik Sense をアップグレードすると、監視アプリが正しくバックアップされません。

通常、Qlik Sense をアップグレードすると、監視アプリの既存のバージョン番号は、アプリ名に付加される対応するバージョン番号と置き換えられます。その後、[アプリ]でも最新の監視アプリが利用できるようになります。

### Possible cause

監視アプリのアップグレードプロセスが失敗しています。

### Proposed action

`%ProgramData%\Qlik\Sense\Repository\DefaultApps`から最新のアプリを手動でインポートしてください。

次の手順を実行します。

1. QMCで、**Apps (アプリ)**を開きます。
2. **Import (インポート)**をクリックして、`%ProgramData%\Qlik\Sense\Repository\DefaultApps`のLicense Monitor.qvfを選択します。  
表示が出て、アプリの名前は変更しないでください。
3. 新しくインポートされたLicense Monitor を Monitoring apps ストリームに公開し、既存のLicense Monitor を置き換えます。
4. Operations Monitor.qvfのためにステップ2を繰り返します。
5. 新しくインポートされたOperations Monitor を Monitoring apps ストリームに公開し、既存のOperations Monitor を置き換えます。
6. Log Monitor、Reloads Monitor、および Sessions Monitor に関してステップ2とステップ3を繰り返します。

## 8.2 間違って監視アプリを削除してしまった

間違って監視アプリを削除してしまい、QMCの中に監視用アプリが見当たりません。

### Possible cause

監視アプリの偶発的または意図的な削除。

### Proposed action

次の手順を実行します。

1. QMCで、**Apps (アプリ)**を開きます。
2. **Import (インポート)**をクリックして、`%ProgramData%\Qlik\Sense\Repository\DefaultApps`のLicense Monitor.qvfを選択します。

表示が出ても、アプリの名前は変更しないでください。

3. 新しくインポートされた License Monitor アプリを Monitoring apps ストリームに公開します。
4. 影響を受ける監視アプリすべてに関してステップ 2 とステップ 3 を繰り返します。

### 8.3 監視アプリが破損した

監視アプリが破損して機能しなくなりました。

#### Possible cause

技術的エラー。

#### Proposed action

次の手順を実行します。

1. QMCで、**Apps (アプリ)**を開きます。
2. **Import (インポート)**をクリックして、`%ProgramData%\Qlik\Sense\Repository\DefaultApps\License Monitor.qvf`を選択します。  
表示が出ても、アプリの名前は変更しないでください。
3. 新しくインポートされた License Monitor を Monitoring apps ストリームに公開し、既存の破損した License Monitor を置き換えます。
4. Operations Monitor.qvfのためにステップ2を繰り返します。
5. 新しくインポートされた Operations Monitor を Monitoring apps ストリームに公開し、既存の破損した Operations Monitor を置き換えます。

### 8.4 監視アプリのリロードに失敗した

リロードが失敗する場合に考えられる原因は複数あります。

### QMCにおける管理者権限の不足

#### Possible cause

Qlik Sense サービスを実行するサービス アカウントには、QMC で必要とされる RootAdmin ロールがありません。

#### Proposed action

監視アプリがデータをすべて問題なく取得するためには、Qlik Sense サービスを実行しているサービス アカウントに十分な権限が必要です。これを達成するためのもっとも簡単なのは、QMC でそのサービス アカウントに RootAdmin の役割を付与する方法です。あるいは、異なるアカウント/ユーザー(つまり、RootAdmin)を使用するようにデータ接続を変更することもできます。

### リム ノードでリロードが実行される

#### Possible cause

負荷分散ルール `ResourcesOnNonCentralNodes` が原因で、リム ノードでのリロードに失敗します。

### Proposed action

負荷分散ルール *ResourcesOnNonCentralNodes* を編集してください。

次の手順を実行します。

1. QMC のスタートページで、[負荷分散ルール] を開きます。
2. *ResourcesOnNonCentralNodes* を選択し、[編集] をクリックします。
3. [拡張] で、[条件] を次のように編集します。  
(`(node.iscentral=false)`)
4. [適用] をクリックします。

### メッセージ:「**Error: HTTP protocol error 403 (Forbidden): The server refused to fulfill the request**」

#### Possible cause

*monitor\_apps\_REST\_license\_overview* データ接続で構成されているユーザーには、そのライセンスとアクセス タイプのエンティティへの読み取りアクセス権がありません。

#### Proposed action

次の手順を実行します。

1. QMC で [データ接続] 概要ページを開きます。
2. *monitor\_apps\_REST\_license\_overview* データ接続を選択し、[編集] をクリックして、適切なアクセス権を持っているユーザーのユーザー ID とパスワードの資格情報を入力します。
3. 変更内容を保存します。

### メッセージ:「**Error: Field not found...**」(項目が見つかりません...)

#### Possible cause

監視アプリに使用されていた一部の項目がログ ファイルからなくなっています。

#### Proposed action

2.1.1以降にアップグレードしてください。

### メッセージ:「**Error: Table 'tempDateTimeList' not found...**」(テーブル 'tempDateTimeList' が見つかりません...)

このエラーは、アップグレード後に発生する可能性があります。特に、環境を同期持続性から共有持続性に変更した場合や、Archived Logs が保存されている Qlik Sense クラスター共有が変更された場合に発生する可能性があります。

### Possible cause

*ArchivedLogsFolder* のデータ接続が正しくないために、アプリがログ ファイル内のライセンス履歴データを検出できません。

### Proposed action

正しいフォルダーの場所を示すように、*ArchivedLogsFolder* のデータ接続を修正します。

### メッセージ:「**Error: QVX\_UNEXPECTED\_END\_OF\_DATA...**」

このエラーについては、複数の原因が考えられます。

カスタマイズされたプロキシ ポート

### Possible cause

プロキシの HTTPS ポートは変更されています。

### Proposed action

すべての *monitor\_apps\_REST\_* データ接続を変更して好みのポート番号を使用します。

### Example:

CUSTOM CONNECT TO "*provider=QvRestConnector.exe;url=https://localhost:4443/qrs...*".

影響を受けるデータ接続は、次の通りです。

- *monitor\_apps\_REST\_app*
- *monitor\_apps\_REST\_appobject*
- *monitor\_apps\_REST\_event*
- *monitor\_apps\_REST\_license\_access*
- *monitor\_apps\_REST\_license\_login*
- *monitor\_apps\_REST\_task*
- *monitor\_apps\_REST\_user*
- *monitor\_apps\_REST\_license\_user*

### Qlik Sense サービスを実行中のユーザー アカウントに行われた変更

エラー メッセージ: **エラー: QVX\_UNEXPECTED\_END\_OF\_DATA: HTTP protocol error 401 (Unauthorized): Requested resource requires authentication.**

### Possible cause

インストール中に、Qlik Sense サービスを実行するユーザー アカウントが作成されます。Qlik Sense サービスに関するアカウントの変更または異なるアカウントの認証情報を選択して実行する場合、それに応じてデータ接続を更新する必要があります。

### Proposed action

次の手順を実行します。

1. QMC で [データ接続] 概要ページを開きます。
2. それぞれの monitor\_apps\_REST\_ データ接続に関して、[編集] をクリックし、新しい [ユーザー ID] および [パスワード] の認証情報を入力します。
3. 変更内容を保存します。

License Monitor、Operations Monitor、または Session Monitor のリロードに失敗するエラー メッセージ: エラー: QVX\_UNEXPECTED\_END\_OF\_DATA: HTTP protocol error 500 (Internal Server Error): 「System.OutOfMemoryException」タイプの例外がスローされました。

### Possible cause

ユーザーとユーザー属性の数が多すぎます。

### Proposed action

次の手順を実行します。

- ユーザー リストを消去してサイズを縮減してください。
- QMC のユーザー ディレクトリコネクター設定で、[既存のユーザーのユーザーデータの同期] を選択したままにして、大量のユーザーおよびユーザー属性が同期されるのを防止してください。

## 8.5 マルチノード環境でリロードに失敗する監視アプリ

リロードが失敗する場合に考えられる原因は複数あります。

### セントラル ノードがリロード ノードではない

既定の monitor\_apps\_REST\_ データ接続文字列を持つ監視アプリは、セントラル ノードがリロード ノードでないマルチノード環境では、リロードに失敗する場合があります。

### Possible cause

監視アプリがリロードされるリロード ノードにはプロキシは設定されません。

### Proposed action

すべての monitor\_apps\_REST\_ データ接続を変更してセントラル ノードの fully qualified domain name (FQDN) を指すようにします。これは、接続文字列 URL の localhost および trustedLocation パラメーターをセントラル ノードの FQDN に置き換えることで可能です。

### Example:

CUSTOM CONNECT TO "provider=QvRestConnector.exe;url=https://centralnodeserver.company.com/qrs..."

影響を受けるデータ接続は、次の通りです。

- monitor\_apps\_REST\_app
- monitor\_apps\_REST\_appobject
- monitor\_apps\_REST\_event



- monitor\_apps\_REST\_license\_access
- monitor\_apps\_REST\_license\_login
- monitor\_apps\_REST\_task
- monitor\_apps\_REST\_user
- monitor\_apps\_REST\_license\_user

### リポジトリデータベースが別のマシン上にある

#### Possible cause

REST データ接続が指しているのは Qlik Sense Repository Database の FQDN であり、Qlik Sense Repository Service ではありません。

#### Proposed action

マルチノードまたは「リモート」の Qlik Sense Repository Database の状況では、Qlik Sense Repository Database が実際にどこに存在するかに関係なく、REST データ接続が Qlik Sense Repository Service の FQDN を指すようにする必要があります。

## 8.6 データベース ログをオフにした後、Operations Monitor アプリでリロードが失敗する

データベース ログをオフにした後、Operations Monitor のリロードタスクが失敗します。

次のエラー メッセージが表示されます。

エラー: Table 'time\_range\_working' not found (テーブル 'time\_range\_working' が見つかりません)

#### Possible cause

監視アプリはデータベース内の最新のログのチェックを続行し、最後のログ メッセージがデータベースに書き込まれた後、これらのログを約 10 時間使用します。データベース ログをオフにした場合、ロードスクリプトの新しいログが見つけれなくなるため、リロードプロセスが失敗する原因となる可能性があります。

#### Proposed action

Operations Monitor アプリのロードスクリプトを手動で更新すると、リロードの失敗を回避できます。

1. ファイル ログが有効になっていることを確認します。
2. Operations Monitor アプリのロードスクリプトを更新します。これは公開済みのアプリであるため、先にこれを複製する必要があります。  
次の手順を実行します。
  - i. QMC で Operations Monitor アプリを複製します。
  - ii. Qlik Sense ハブで複製されたアプリを開きます。
  - iii. 次のように変数 `db_v_file_override` を 0 (既定値) から 1 に変更して、ロードスクリプトの 9 行目を更新します。  
`SET db_v_file_override = 1`  
この変数を 1 に設定すると、スクリプトはデータベース ログのログ エントリをチェックしません。

- iv. アプリを保存します。
  - v. 複製したアプリを[監視アプリ]ストリームに公開し、[既存のアプリを置き換え]を選択して、既存の Operations Monitor アプリを置き換えます。
3. Operations Monitor を起動して、再度タスクをリロードします。すぐに機能しない場合は、数分待ってから再度リロードします。

この手順に従うことで、データベース ログを安全にオフにすることができます。

### 8.7 Qlik REST コネクタ経由でのQRSへの接続に失敗した



この問題はQlik REST コネクタを使用するアプリがあるときにだけ発生します。

Qlik REST コネクタ経由でのQRSへの接続に問題があるというエラー メッセージが表示されます。

#### Possible cause

そのQlik REST コネクタはアンインストールされたか破損しているため利用できません。

#### Proposed action

リロード中にこのエラー メッセージが表示されたら、Qlik Senseインストールが正常に動作しているか確認する必要があります。Qlik Senseの修理またはアップグレードを検討してください。